副会長就任のご挨拶

8つに分かれた。それはある時は東と西に、日本海側と太平洋側に群れ、離合集散を繰り返した。

正論あり、異論あり、奇策を弄し、奇奇すらままことやかに流れ、自称他称のボスたちが暗躍した。

未曾有のシェトルム ウント ドラッグ

こうしたなか、自然の朽理というか、風がおきまり、必然かあるいは偶然の帰納として、勇気ある賢者らによる選択がなされ、会長に改革路線が選ばれた。結果が正しかったかどうかは今後の評価にゆだねるしかあるまい。

こうして日精協のルネサンスは新しきミレニアムに向け、第一歩を踏み出すことになった。

偶然の選択として選ばれたものとして、“グッドラボイス”と呼ばれるためには、皆と一丸になって事にあたるしかあるまい。

変革と飛躍

日精協の夜明けが来て、これが精神医療の革新につながることを信じ、執行部の一員としてそのための努力を惜しまないことを、強く、固く、決心する。

いずれにしろ、昨年、創立50周年を迎えたわれわれの日本精神病院協会には、課題が山積みしている。

さて、今回の医療費改定は、医療のあるべき姿が論じられることなく、財政主導のみで進められただといわざるを得ない。さらに、今、社会保障制度はそのものあり方が議論され、抜本改正されるようしている。

21世紀に向けた社会保障制度の改革論議は、既得権益に基づく本質からかけ離れた論議に終始し、国民の幸せを願い、そのコンセンサスを得るには程遠い状態にある。

50周年を機に、今こそわれわれは、過去を振り返ることなく、未来に向けて国民的視野に立ち、大きく展望を広げべきである。こうした激動の時こそ、全員の力を集結し、総力を挙げて事にあたるべきだと思う。

今後予想される介護保険制度施行後の混乱や、従来の医療・福祉との関わりを調整・整理し、精神保健医療福祉分野の守備範囲を新しい観点から見直し、国民の信頼する安定した精神保健福祉の世界の創造を目指していくことはありませんか。

日医の傘の下に、日精協の意見がややもすると軽視されているのではないかという危惧さえある。

自分たちの意見を日医に厚生省に政治家に国民にどう投げかけていくのか、ストレートに伝わる方法を模索していきたい。

コップの中の争いを止め、日精協の未来に向け、精神医療に燁光を見出すべく、ひたすら邁進していく覚悟です。

妄言多謝